

第19回中国大学生「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本報告書は、「走近日企・感受日本」事業の第19回訪日団の報告書です。

本事業は、中国人大学生を訪日視察に招待派遣するもので、中国日本商会在会員からの寄付金を原資として、2007年から年に2回実施しており、今回派遣した19回までで29大学592名の学生に参加いただきました。

次代の中国を担う若者を日本に派遣し、日本の実像に触れてもらう機会を提供する本事業は、日本企業への訪問・視察、大学生との意見交流、日本人一般家庭でのホームステイなどの豊富なプログラムを通じて、日中両国民の相互理解の増進に大きく貢献しているものと自負しております。

中国からは、2016年に前年比27.6%増の637万人が日本を訪れています。本事業開始当時とは状況が異なっていますが、若い世代の人たちが初めて訪れる日本で見て聞いて感じて得られる感動はその後の人生や日中友好に少なからず好影響をもたらすことは不変であると信じております。

さて、第19回訪日団は、2016年11月29日から12月6日までの8日間、北京大学、北京師範大学、北京理工大学、北京語言大学、中国農業大学および国際関係学院の6大学から選抜した30名で編成され、一同、感動とともに無事終了することができました。

視察企業は、日本航空羽田整備場(東京)、パナソニックエコテクノロジーセンター(兵庫)、トヨタ自動車元町工場(愛知)、三菱東京UFJ銀行(東京)、三井物産(東京)、イトーヨーカ堂配送センター(東京)、ホテルニューオータニエコセンター(東京)の7社。この他、大阪大学、法政大学における日本人大学生との交流、中国大使館の訪問、日比谷松本楼の視察、一泊二日のホームステイ体験など、多彩なプログラムを実施しました。ホームステイの受入れにご協力いただいた企業は14社(アルプス電気、伊藤忠メタルズ、キヤノン、新日鐵住金、住友商事、全日本空輸、テルモ、トヨタ自動車、日中経済協会、日本航空、丸紅、三井物産、三菱ケミカル、三菱商事)にのぼっています。

このように「走近日企・感受日本」事業は、中国日本商会の会員企業の多大なる協力と貢献のもとに実施されています。また、共催団体である中国日本友好協会に全面的なご協力をいただくとともに、訪日団の受入れや本報告書の編集には、一般財団法人日中経済協会に多大なるご尽力をいただいております。加えて、寄付金については、中国側では中国友好和平発展基金会、日本側では公益社団法人企業市民協議会(CBCC)に適切な管理を行っていただいております。改めて、本事業実施にご支援、ご尽力をいただいているすべての関係者に厚くお礼を申し上げます。

本事業が日中相互の国民レベルでの理解促進の一助となり、将来さらに大きな実を結ぶことになれば、これに勝る喜びはありません。

中国日本商会 会長 古場文博

2016年12月